

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数制限がある場合には、句読点・記号も字数に数えます。

①「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」といった思いは、思春期に限らず、だれもが抱えているものではないか。今の自分の生活に満足できない、納得がいけない。充実感がほしい。何か打ち込めるものがほしい。「生きてる」っていう実感がほしい。現実を振り返れば、何でも適当、周囲に流される、そんな意志の弱い自分がいる。何をやっても続かない。なかなか思うようにならない現実に行き詰まっている。何の能力も発揮できない。そんなカッコ悪い自分がいる。

そんな自分はほんとうの自分じゃない。そう思えば気持ちがラクになる。「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」と思うことは救いになる。問題はその後だ。A

もっと自分らしい生き方に向かって歩み出すのか、I「ほんとうの自分は、こんなもんじゃない」という思いを言い訳にして適当に流され続けるのか。

僕たちは、どうしても惰性に流されやすい。流れに逆らって生活を変えようというのは、とても大きなエネルギーを必要とすることなのだ。生活を変えるには大きな覚悟がいる。B

II、思い切って生活を変えるにしても、どう変えたら生活に張りが出てくるのか、どうしたら納得感が得られるのか、それがわからない。試しに何かに打ち込んでみたとして、いきなり充実感が得られるわけではない。充実感なんて、そう簡単に手に入るものじゃない。何をやるにしても、充実といえる状態にたどり着くまでには、地道な努力が必要となる。III、何かに打ち込んだとして、充実感を得られるかどうかは、それを本気になってやってみないとわからない。本気でやってみてから自分に合わなかったとわかることもある。C

そんなとき、「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」とどこかにほんとうの自分があるはず「いつかきつとほんとうの自分にめぐりあえるに違いない」と思うことで、今の生活を変える努力を何もしなくても、現実逃避的な安らぎが得られる。D

「ほんとうの自分は、こんなもんじゃない」という思いを言い訳にして、「とりあえず今は、このままでいいか」と開き直ることができる。今の納得のいかない生活。それに甘んじている自分。どうにもパツとしないけど、これは「ほんとうの自分」じゃないんだ。そう思うことで気持ちが軽くなり、束の間の安らぎが得られる。E

このように、「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」と思うことが、現実への不満に対するごまかしになっていることが多い。「どこかにほんとうの自分があるはず」「いつかほんとうの自分にめぐりあえるはず」という自分探しの物語は、自分らしいと納得できる生活に向かって一歩を踏み出す覚悟ができない怠惰な心にとって、便利な救済装置となっているのだ。

ごまかしだけではない。本気になって自分探しに取り組むこともある。就活に真剣に取り組む若者にも、自分探しの迷宮にはまっている人が多い。

自己分析を徹底してやれば、ほんとうの自分が見えてくると思っている。なかには「もつとしつかり自己分析をしてから就職しないといけない」と思うんです。中途半端に就職したら、きつと後悔すると思うから。IV 就活は一年延ばそうと思います」などというケースもある。

自分が何を求めているのか。自分はどんな仕事したいのか、どんな仕事に向いているのか。自分にはどんな生き方がふさわしいのか。じっくり自己分析をすれば、それがわかるとでもいうのだろうか。③ けつしてそんなことはないはずだ。

僕は、自己分析テストや職業適性テストを作ってきた側の人間だからよくわかるのだが、その類のテストをいくら受けても自己分析が深まることはない。それは、④ ダイエットしようとして何度も体重計に乗るようなものだ。大事なのは、測定することではなく行動することだ。行動することで測定値は変わってくる。

そもそも自己分析の素材は、これまでの自分自身の行動のサンプルだ。適性検査を思い出してみよう。「あなたは……ですか」といった質問が並んでおり、その都度「自分はどうかだったかな」とこれまでの自分を振り返りながら答えていく。自分自身の行動のサンプルと照らし合わせながら答えた結果が自己分析の素材になっているのだ。

それなら、より有効な自己分析をするために、行動のサンプルをできるだけ増やす必要がある。やってみることで発見する自己という視点をもつてみよう。

やってみたら意外に面白いと思うことがある。苦手だと思っていたけど、やってみたら「案外自分は向いてるかもしれない」と思えてくることもある。興味をもっていたけど、やってみたら「ちょっと自分には無理」と思うこともある。

このように、行動することで、思いがけない気づきが得られることがある。それまで気づかなかった自分の一面を発見することがある。何でもそうだが、やってみて初めてわかることがある。逆に言えば、いろいろやってみないことには、自分というのはわからないことだらけなのだ。

「どこかにほんとうの自分があるはず」というのは間違いだ。自分というのは、「今、ここ」にいる自分しかない。自分探しの物語に安住している限り、今の自分は変わらないのだから、永遠に納得のいく生活なんて手に入らない。⑤ 今ここで新たな一歩を踏み出さないかぎり、自分の生活に変化の風を巻き起こすことはできない。

「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」と思うのは、今の生活から脱却したいという気持ちの表れといえる。それなら抜け出すしかない。惰性に流されながら、「いつかほんとうの自分にめぐりあえるはず」などと思っていたって、そんな日はけつしてやっこない。妖しげな魅力を放っている自分探しの物語から抜け出して、今ここにいる自分を何とかしたいけないのだ。

(榎本博明『「自分らしさ」って何だろう? 自分と向き合う心理学』一部改変)

(注) ※ 惰性……これまでの習慣。

※ 怠惰……しなければいけないことを、なまけること。

※ 就活……就職するための活動、「就職活動」の略。

問一 この文章には以下の文が欠落しています。本文中の **A** ～ **E** のどこに入りますか。記号で答えなさい。  
そうすると、なかなか覚悟ができない。

問二 **I** ～ **IV** に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。  
ア でも イ それとも ウ 例えば エ だから オ それに

問三 傍線部①「今の自分は、ほんとうの自分じゃない」とありますが、このような思いをもつのはなぜですか。それを説明したものとして適当でないものを次の中から選び、記号で答えなさい。  
ア 今の自分に満足や納得ができていないから。  
イ 「生きてる」という実感があまりないから。  
ウ 心から打ち込めるものを奪われてしまったから。  
エ 思うようにならない現実を打ち破れないから。

問四 傍線部②「現実逃避的な安らぎ」とはどのようなものですか。四十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部③「けっしてそんなことはないはずだ」とありますが、筆者がそのように考える理由を、八十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部④「ダイエットしようとして何度も体重計に乗るようなものだ」とありますが、どういうことを表していますか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。  
ア やせたいという気持ちだけが大きくて、結果には結びついていないということ。  
イ やせようという努力をしていないのに、体重ばかり測っているということ。  
ウ ほんとうにやせたいかどうか、自分の気持ちを確かめたがっているということ。  
エ やせるという意志を固めるために、数値を利用しようとしているということ。

問七 傍線部⑤「今ここで新たな一步を踏み出さないかぎり、自分の生活に変化の風を巻き起こすことはできない」とありますが、どういうことですか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 今の自分を変えるためには、新しい発見のきっかけとなる行動が必要だということ。  
イ ほんとうの自分などないのだとあきらめて初めて、ほんとうの自分というものが現れるということ。  
ウ 苦手だとされていることに挑戦しない限り、ほんとうの自分を発見することはできないということ。  
エ 自分の可能性が信じられれば、今の自分や自分の生活にも満足できるようになるということ。

問八 次のア～エが本文の内容に合致していれば○、合致していなければ×を、それぞれ解答欄に記入しなさい。

ア 人は現実に不満をもちながらも、なかなか変わろうとはしないものである。  
イ その人に何に向いているかということは、人生の段階により異なっていく。  
ウ 自分探しの物語に乗ること、かえって現実に留まり続けることになっている。  
エ 今の自分を否定する気持ちをもたして、ほんとうの自分を探す努力をすべきだ。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数制限がある場合には、句読点・記号も字数に数えます。

日野晃道は新卒採用の教師であり、神無城小学校の3年2組の担任になった。

二日目も、まだ、記憶は飛び飛びだ。

入学式への引率があるが、3年生はあまり大きな役もなく、校歌と歓迎の歌を歌うだけ。式全体ではなく、その時だけのスポット参加だ。体育館への行き帰りのことばかり覚えていて、式のことはずっと引き抜けている。

というのも、引率というのがいかにトラブルだらけかというのをはじめて知ったから。昨日は、まだおとなしかった子らのうち、幾人かが列を飛び出してじゃれ合うのを引き戻さねばならなかった。①それをどう叱ればいいのかよく分からない。

入学式から教室に戻ってから、はじめての授業、ということになる。

なにはともあれ、学活だ。3年生担当教師の学年会でつくった「自己紹介カード」を書くことになっていた。名前、好きなもの、そして、3年生のめあて……などなど。

まず、晃道自身が、\*フォーマットに従ってあらためて自己紹介をしてから、「じゃあ、みんなのことを知りたいから、自己紹介カードを書いてください」と言う。

昨日よりは少しましとはいえ、まだ声が震えている気がする。とりあえずは机間を巡回しつつ、昨晚、必死に暗記してきたことを口の中でぶつぶつつぶやいた。

「そろそろ約束の一〇分になります。書けたところまでいいから、みんなで自己紹介しましょう。出席番号の順番に行きます。青山美咲さん」

青山美咲は、長いストレートの髪と黒目がちな目が印象的な子だ。

②美咲は、最初、きょとんとした表情をしてから、ぴよんと立ち上がった。

そして、カードに書いた紙を読み上げるように自己紹介した。好きなものはカレーライスとバレエ、3年のめあて……クラスのみんなと仲良くすること……。

「いいね、仲の良いクラスにしたいね。次の人はまだのようなので、じゃ、井上拓海くん」

拓海もさっきの美咲と同様、きょとんとしてから口を半開きにした。

「好きなのは、野球で、イチローみたいになりたいです。3年生のめあては、うーん、忘れ物をしないこと！」ちよつとおちゃらかんじで座った。「では、できたかな、池田大輝くん」

このあたりで、軽くどよめき。

よしよし、と晃道は思う。なにしろ、人の顔と名前を一致させるのが苦手なくせに、これだけはきょうまでに成し遂げようと気合を入れたのだ。昨晚は、午前三時までかかって、名簿順に名前をすべて頭にたたき込んだ。大学受験で歴史の詰め込み勉強をしている気分になった。

③でも、晃道にとって絶対にしなければならないことだった。なぜなら、晃道が憧れた先生との出会いで一番印象的な「事件」がこれだったから。先生は、はじめて見る晃道たちのクラス全員の名前を、名簿を見ずに呼んだ。

当時は今よりもクラスの人数が多く四〇人くらいだったと思う。

なのに淀みなく、一人として間違わなかった。単純この上ない晃道は、たったそれだけのことで、先生のことを好きになった。始業式からまだ二日目なのに、もう名前を覚えていて、笑顔で「日野晃道くん」と呼んでくれた先生のことを。

きつとあの時も、名簿順に席が並んでいて、先生は名簿の順に名前を覚えたのだと思う。今、同じ立場にいる晃道は、それだけは絶対に見習おうと決めていたのだった。

立ち上がったタイキはやたら大きな目で、晃道を見ていた。タイキは、前担任から申し送られていた要注意事項のひとり。突飛な行動が多いという。でも、それは、今はどうでもよくて、目の前の小柄な男の子が何を言うのかXだった。

「好きなもの！むかしの生き物！恐竜！ディプロドクスよりも、マメンチサウルス。3年生のめあて！恐竜はかせになる！」声の物差しをまったく無視して、過剰なほど元気いっぱいに言って座った。

くすつとあたたかな笑顔が漏れ、クラスの雰囲気は和んだ。

④こういう子は大人の目からは問題児に見えることもあるかもしれないが、同時に子どもたちの間では人気者でもあって、影響力が大きいそう。出席番号10番、栗栖美月の番になったとき、美月は口ごもった。

何か言いたそうに、もごもごと動かすのだけれど、聞き取れなかった。申し送りによると、美月は極端な引っ込み思案だそうだ。

それでも、「みんなと仲良くしたい」というめあてを言えたので、ほめた。ほめておいて、間違いはない。

以降、順調に自己紹介が進んだ。

⑤異変が起きたのは、出席番号18番、椿海大輝が立ち上がったときだ。マサキもまた、要注意事項の申し送りを受けている。元気がありあまつており、不注意な言動で問題を起すこともある、と書かれていた。具体的には……よく分からない。

そのマサキが、いきなり、「てるてる先生！」と大きな声で叫んだ。

もう一人の大輝であるタイキ同様、声の物差しは完全に無視。

たしかに元気がありあまっている。

「なにそれ、てるてる、って」晃道は聞き返した。

「だって、つるつるで、てるてる、じゃん」とマサキは晃道を指さした。要領を得ない。

すっと手を挙げたのは、出席番号1番の美咲だった。

「先生の名前には、お日さまの『日』の字がふたつ入っています。だから、てるてる先生です！」

「先生のおでこ、光っててお日さまみたいですよ！」

これは誰が言ったのか分からなかった。

教室に明るい笑いがこぼれ、晃道はなんだかとても幸せな気分になった。

⑥ てるてる先生、悪くないな、と思った。

そのあたりから、ふたたび記憶はあやふやだ。

さっそく楽しい愛称をもらった喜びのせいで舞い上がってしまったのか、とにかく覚えていない。どうして、頭がつんつんしているんですかー、と聞かれたけれど、なんて答えたのだったか。

帰りの会は、昨日よりも早く終えられたので、教室を出る時に、ひとりひとりと握手をした。

列が滞ったのは一度だけ。栗栖美月と握手した時だ。

美月は、小柄で、華奢で、少し猫背。ピンク色のランドセルを背負っているというより、背負わされているというような印象。

その美月が、握手するのをためらった。

「どうしたの栗栖さん」と言うと言指先を触れただけでまた手を離し、行ってしまった。

その間、ずっとうつむいたままだった。

「佐倉彩花さん、佐藤陸くん、里見蓮くん、シユタイナー勇樹くん、蘇我俊輔くん……」

次々と子どもたちがやってくるから、栗栖美月のことを気にしている時間はなかった。

「……茂原佳織さん、山本志保里さん、弓削慎太郎くん、和田夏希さん」

三〇人の子どもを送り出し、「てるてる先生、さようなら！」と最後の数名が笑顔で手を振って階段を下りていくのを見ると、満足感がこみ上げてきた。

(注) ※ フォーマット……形式のこと。

(川端裕人『ギャングエイジ』一部改変)

問一 傍線部①「それをどう叱ればいいのかよく分からない」とありますが、それはなぜですか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 児童の引率は初めてであり、担任としてやるべき仕事に追われて叱る時間が惜しかったから。

イ 担任として振る舞うことに不慣れであり、児童との接し方についても確固とした考えがなかったから。

ウ 児童一人ひとりの名前を覚えていないので、叱ろうにも叱ることができないから。

エ 児童たちから嫌われないような叱り方をまだ知らなかったから。

問二 傍線部②「美咲は、最初、きょとんとした表情をしてから、ぴょんと立ち上がった」とありますが、晃道は美咲がなぜこのような反応をしたと考えていますか。三十字以内で説明しなさい。

問三 傍線部③「晃道にとって絶対にしなければならないことだった」について、

(1) 「しなければならないこと」とは何ですか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人の名前を覚えるのが苦手であることを隠すこと。

イ クラスの児童らに好かれ、憧れられる先生になること。

ウ クラスの児童たちの思いもよらない行動を予測すること。

エ クラスの児童全員の名前を完璧に暗記すること。

(2) 晃道は、なぜそのように考えたのですか。七十字以内で説明しなさい。

問四 X に入る表現として最も適当な四字熟語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 意気揚々

イ 疑心暗鬼

ウ 得意満面

エ 興味津津

問五 傍線部④「こういう子」について説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 先生の思惑<sup>おもわく</sup>を無視して自分の好きなことをやってしまう子。
- イ 本当はやさしいが、それを表現することが下手な子。
- ウ 元気がよいが、周囲に気を配ることは頭になさそうな子。
- エ 乱暴に見えるが、本当は人の目を気にしてばかりいる子。

問六 傍線部⑤「異変が起きたのは、出席番号18番、椿海大輝が立ち上がったときだ」とありますが、「異変」とは何ですか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア マサキが晃道に向かって「てるてる先生！」と叫んだこと。
- イ マサキがみんなと同じように自己紹介したがらなかったこと。
- ウ マサキが晃道の言うことを聞くなとみんなをあおったこと。
- エ マサキがもう一人の「大輝」と張り合ってけんかを始めたこと。

問七 傍線部⑥「てるてる先生、悪くないな、と思った」とありますが、このときの晃道の気持ちを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「てるてる先生」という名前は気に入らないが、クラスの児童がうれしそうにそう呼んでいるので、それで十分だと思っている。
- イ 「てるてる先生」という名前をつけてもらってうれしく思い、そのことでクラスがよい雰囲気になったことを喜んでいる。
- ウ 「てるてる先生」という名前の意味は分からないが、これがきっかけでクラスの児童と心の距離<sup>きょり</sup>が縮まることを期待している。
- エ 「てるてる先生」というあだ名で呼ばれると、児童に担任として受け入れられたように思えるので、達成感を感じている。

問題三は次のページから始まります。

### 三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字で答えなさい。

- ① 友人のゴカイをとく。
- ② ハンドルをソウサする。
- ③ みそをチヨゾウする。
- ④ 年才いた犬を保護する。
- ⑤ よい成績をオサめる。

### 四

次の①～⑤の傍線部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

- ① 文武両道の人。
- ② 図書館で私語は厳禁だ。
- ③ 子供の安否を気づかう。
- ④ 墓に花を供える。
- ⑤ 客からの喝采を浴びる。

### 五

次の①～⑤の□に漢字を入れて、ことわざを完成させなさい。

- ① □ □ に塩
- ② □ □ を食らわば皿まで
- ③ □ □ の霹靂
- ④ □ □ に一生を得る
- ⑤ 渡りに□ □